

留学生の住環境・就職支援事業 CARES-Osaka (※)

産・官・学・金・地のコンソーシアム「CARES-Osaka」が、留学生にとっての「大阪＝第2のふるさと」を創生することを目指し、留学生が大阪近隣で就職・定住して地域住民と共生するための支援に取り組んでいます。



りそな銀行、大阪産業創造館との共催の企業新作商品モニター会

※CARES-Osaka (大阪・留学生住環境・就職支援サポートプロジェクト)
…大阪の留学生の増加、留学生の大阪近隣での就職・定住、そして地域住民と共生する「大阪＝第2のふるさと」創生などを目指す事業。
平成27年度 文部科学省 住環境・就職支援等受入れ環境充実事業に採択。

活動の概要

目的	大阪の外国人留学生の日本（関西圏）及び日系企業での就労・定住を支援すること
連携メンバーおよび役割	大阪大学 / 大阪府立大学 / 大阪市立大学 / 関西大学 …留学生の獲得、就職・キャリアを意識した教育の提供 りそな銀行 / 池田泉州銀行 / 株式会社i-plug など …外国人留学生との積極的な交流および雇用に関する門戸を開く UR都市機構 / UNIV LIFE / 関西大学生生活協同組合 など…地域住民と共生する住環境の提供 大阪府 / 吹田市 / 箕面市…留学生が地域になじみ、卒業後も定住するような仕組みづくり 大阪府国際交流協会 / 吹田市国際交流協会 / 箕面国際交流協会…留学生の地域交流支援 大阪商工会議所 / 大阪労働協会…留学生の就職支援
活動地域	大阪府下、近畿（関西）圏内
活動期間	2015年～（継続中）
費用	文部科学省委託事業経費および関西大学130周年記念事業国際化事業経費

連携の経緯

関西大学は、文部科学省 留学生交流拠点整備事業の採択を受け、2012年から3年間、大阪府北部における大阪外国人留学生の受入れ促進と地域の活性に取り組む「H.O.M.E.留学生交流拠点事業」を展開し、地域・企業・大学によるコンソーシアムを設置した。2015年、同事業のテーマ「留学生の第二の故郷」を受け継ぎ、コンソーシアムに新たなメンバーも加え、大阪全体を視野に入れたプロジェクトとして「CARES-Osaka」が始動した。

解決すべき課題

- (1) 留学生の就職に関して、大学側の支援制度と受入側の人材獲得ルートの整備
- (2) 留学生の住宅に関して、空き部屋活用による長期滞在や多様な生活スタイルへの対応が可能な住環境整備
- (3) 地域における外国人住民（留学生を含む）の支援と、地域住民との交流促進

大学の役割

関西大学は、国際部内にCARES-Osaka事務局をおき、専門コーディネーターを配置するなど、日々の活動の主体的な対応を行っている。CARES-Osaka運営委員会やコンソーシアムが中心となって活動内容を策定のうえ、関西大学が仕掛け人となり留学生のための就職支援・住環境支援を進めている。以下は2016年の活動内容の一例。

- ・2月 第1回CARES-Osakaシンポジウム「留学生のためのキャリア・サポートを考える」を開催。
- ・6月 国際部主催「サマースクール」で短期留学生を対象に大阪府下（スイスホテル南海大阪・EXPOCITY・道頓堀商店街など）におけるフィールドワークを実施し、地域やキャリアへの理解を深めた。
- ・10月 エパオン社の協力を受け、「留学生採用促進セミナー」で、留学生採用の実態と先進事例を学んだほか、関西圏の企業を「営業」するインターンを実施。りそなグループホールディングスの協力を受け、関西企業が新作商品を持ち寄り留学生がモニターとなる「留学生モニターイベント」を実施。
- ・通年 「日本事情II」「日本社会のコミュニケーション（関西を学ぶ）」等の正課科目で、「企業人と懇談するシリーズ」「企業訪問」を実施。日本漢字検定協会の協力を受け、BJT(Business Japanese Test)の紹介、セミナー等を実施。

成果

- (1) 大阪府下の産・官・学・地・金のコンソーシアムを構築
- (2) 大阪府下複数大学による垣根を越えた議論を実施
- (3) 地域の企業の参画によって、企業のリアルな声を把握
- (4) 吹田市など北摂地域の自治体の活動に留学生が参加
- (5) 「日本で働く」ことをイメージできる教育科目を設置

今後の展望

- (1) 初年次から日本での就職を意識する機会を継続して提供
- (2) 日系企業への就職を希望する留学生の支援
- (3) 大阪の複数大学がより密に連携できる仕組みの構築
- (4) コンソーシアムの拡大と、委託期間終了後も継続できるシステムの構築
- (5) 海外への本事業の発信方法の策定

研究者の紹介



国際部 教授
池田 佳子
(いけだ けいこ)

国際部教授・国際教育副センター長。大阪府出身。ハワイ大学にてPh.D.取得(言語学)。研究分野は会話分析、マルチモーダル分析、エスノメソドロジーを応用したコミュニケーション学。現在の専門は外国語（日本語・英語）教育、留学生教育、グローバル人材育成教育を含む国際教育、教室内や多様なメディア（ロボット・ICTなど）を介した多人数相互行為研究。

CARES-Osaka

CARES (Communal Actions for Resident and Employment Support) by Osaka



CARES-Osakaの概念図 (2016年12月現在)



現場の声



・古川智樹 (国際部准教授)

留学生教育に携わる教員にとって、企業が留学生にどのような資質を求めるとか、留学生にどのような機会を在学中に提供すべきか、より実践的な感覚を持てるようになりました。



・林恩新 (留学生・商学研究科 博士前期過程1年生)

企業の方々企画を練るとき等のように議論を重ね、どのような手法を取って仕事を進めていくのか、母国とは違う日本ならではの仕事の方法が学べ、大変勉強になりました。